



「危険物倉庫と言えば小林運輸」と言われるまでになりたい

「運輸」と「倉庫」 2つの事業展開が生み出す強み

お客様の製品を引き取り、倉庫で保管。その倉庫から全国に製品を出荷。この「運輸」と「倉庫」の2つの事業展開が、小林運輸(株)の強みだ。大手物流会社の下には就かず、メーカーと直接取引を行っている。2トンから13トンまで実に58種類の自社トラックを所有し、北は茨城、福島から南は九州までの長距離運行も行っている。

取扱製品の業種別シェアは、化学品40%、その他(紙、木、鉄など)が60%だ。

先代の父・吾郎氏(現会長)は20代で山梨県から上京。1970年に平塚市で小林運輸を設立した。父母の兄弟ばかりを集め数人でスタート。父は社長兼ドライバー、母が配車や経理などもすべて行い、会社を取りまとめている。その後、外部から社員を採用するようになり、1996年、小林社長が27歳で入社した当時は社員が25名で、ほとんどがドライバーだった。現在もドライバーは全員社員



2019年11月、小林社長の実家をリノベーション移転したデイサービス

として雇っている。

「ドライバーに1台約2000万円ものトラックを預けるわけですから、自社でしっかりと教育し、信頼できる人間関係をつくり、保っていく必要があるのです。」と語る。

2005年に茨城営業所を設立。2015年には、平塚と茨城のちょうど中間地点にある東京に荷物をスイッチできる場所として、さらに営業所を設置した。

また、父が創業した当時は運送業のみを行っていたのだが、「物流業界はトラックだけでは勝てない。倉庫を持てばプラスαの仕事が増える」と判断。2011年、小林社長の代で倉庫業にも登録した。

ターニングポイントとなった2007年

平塚市にある小林運輸の自社物流センター内には危険物倉庫(引火性の物、ベンキなどの危険物がドラム缶や石油缶に密封され、保管されている倉庫のこと)と一般的な倉庫が1000平米ずつ2棟建っている。メインである客先から相談を受けたことをきっかけに、2007年に危険物倉庫を設置した。危険物倉庫は工業団地にしか建てられず、防災の理由で10M四方の保有空地をつくる必要があるため、倉庫としては非常にロスが多い。現在でも平塚市内で危険物倉庫を所有している会社は小林運輸しかない。開発から足かけ2年かけて建てたこの倉庫の設置が、小林運輸のターニングポイントとなった。

小林運輸の関連会社には人材派遣会社もある。2007年に開設された物流センターのスタッフ確保のために、同年、湘南派遣(株)を設立した。すると同時に小林運輸の営業スタッフも確保できた。人材派遣会社として工場系の企業へ営業を行った際に、本業の取引に結びつけることも出来た。人材確保と顧客拡大…一石二鳥の結果となった。

「社員のために」良いと思ったことは まずチャレンジ!

小林社長は3年前、経営指針作成部会50部会を受講している。一番大きな変化は「会社が自分ものという認識から社員のものに変わった」ところだと言う。

2018年4月、M&Aで介護デイサービスを引き継ぎ、施設運営を始めた。数年前「母親が施設に入るので遠距離は走れない」と、あるドライバーから相談を受けていたことが、介護施設の経営に繋がっていった。

経営指針受講後、40代の社員を集めて「10年後どんな会社にしたいか?どんな会社に勤めていたいのか?」という話し合いの場を設けた。その中の一人が言った。「16歳から70歳まで働ける環境がある会社がいい。」この言葉が小林社長の心に刺さった。

「社員が働きやすい環境をつくり、安心できる会社、ずっと働いてみたいと思える、やりがいのある会社にしたい。その根底にあるのは、周りの人に気遣いの出来る、思いやりが持てる社員の集まりにしたいという想いです。」

さらに、「まずは“危険物倉庫と言えば小林運輸”と言われるまでになりたいです。そして、今後は一般的な倉庫だけではなく、冷蔵倉庫、保税倉庫や温度管理が出来る倉庫など特殊な倉庫、付加価値のある倉庫を増やしていきたいと考えています。」社長が掲げる力強いビジョン。今後の展開が楽しみだ。



小林誠社長
気づけば
小林ワールドに
引き込まれていた。
テンポ良く
軽快なトーク!

〈取材・文: (同)イーストムーンインターナショナル 卵月由美 / デザイン・レイアウト: (有)デザインスペースマジック 佐藤慎治〉

彩 時季
2月

株式会社
林 由美子
(はやしゆみこ)
(横浜中央支店)



新たな年を迎える、どのようにお過ごしでしょうか?

1年内で一番『飲酒』の機会が多かった時期を過ぎ、ちょっとお疲れ気味では? 会合も多く飲む機会も多い会員の方から先日「アルコールはどのくらいの量まで許されるんでしょうか?」との質問がありました。

国立がん研究センターでの最近の研究データによれば、男性1日の摂取量ビール大瓶2本、日本酒2合、焼酎25度240ml、ワインはグラス4杯(400ml)、ウイスキーダブル2杯(120ml)を超えると原因による死亡率がぐっと上るとの統計が出ています。(女性は体質上男性の半分の量との事) 厳密にいえば各個人の年齢・検診結果や遺伝的背景にも多少左右されますが、確実に上がるらしいのでご注意を!

【広報委員】 [横浜中央支店] 中林正幸、網野雅広、[横浜みなと支店] 野垣博文、[たま田園支店] 佐藤慎治、鈴崎治男、[川崎支店] 外木宏明、[県央支店] 岡部達彦、[湘南支店] 鈴木大、田邊洋子、[小田原支店] 小山暢宏

表紙/photo: 中林正幸(有)マス・クリエイターズ / design: 佐藤慎治(有)デザインスペースマジック

神奈川県中小企業家同友会 | 2020年1月1日発行(月刊)毎月1回1日発行 編集責任者/中林正幸 発行:神奈川県中小企業家同友会 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
同友かながわ第411号 | 神奈川中小企業センタービル3F TEL:045-222-3671 FAX:045-222-3672 制作・印刷/株式会社機関紙印刷所